

組織目標評価報告書（平成24年度）

部局名：アドミッションセンター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	自己評価
①-1 目標	
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②研究領域	自己評価
②-1 目標 入試の在り方と改善に関する次の調査・研究を行い、入試の改善を検討する。 1. 入学者選抜方法の分析と妥当性の調査を行う。 2. 学生の成績追跡調査(入試時の成績、在学時の成績)を行う。	1. 平成20年度入学生(4年修業学部・学科等)2,108人の4年間での卒業率を調査した結果、4年間での卒業率は86.1%(1,815人)であった。前期日程入試85.5%(1,391人→1,190人)、後期日程入試85.5%(234人→200人)、AO入試89.6%(201人→180)、推薦入試89.9%(258人→232人)、その他入試[社会人、専門・総合、帰国子女、私費外国人]54.2%(24人→13人)であり、その他入試の卒業率は種々の事情から低調であるが、前期・後期日程入試、AO入試及び推薦入試入学者は高い卒業率であることから、妥当と言える。 2. 平成20年度入学生(4年修業学部・学科等)を学部・入試方法別に、大学の授業科目GPAの平均値を集計した結果、AO入試・推薦入試入学者のGPA平均値はほぼすべての学部で前期日程入試入学者のそれよりも上回っていることが明らかになった。 なお、平成24年9月にアドミッションセンターセミナーを開催し、これらの調査結果を各学部へ説明するとともに、調査結果資料を各学部へ提供した。
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標 各学部配布する分析報告書	
③社会貢献(診療を含む)領域	自己評価
③-1 目標	
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
④センター業務	自己評価
④-1 目標 1. 入試ミスの防止 出題等の入試ミス防止策を検証するとともに、入試ミスが発生しない体制を構築する。 2. 優秀な学生の確保 前年度に策定した、全学のアドミッション・ポリシーを、募集要項等に掲載し、受験生等に岡山大学が求めている学生の資質を周知する。 また、本学が求める資質を持った、優秀な入学者を獲得するための広報戦略を展開する。 3. 学部入学制度の改善 学部入試制度(AO入試、推薦入試、社会人入試、編入学)の改善を継続的に検討し、受験生等にわかりやすい入試制度を構築する。 国際バカロレア入試等の結果に基づいて、秋季入学の実施の可能性について検討する。 平成28年度入試からの新指導要領に基づく入試について、センター試験の利用科目の決定、個別試験科目等の決定を行い告知する。 4. 大学院入試制度の改善 大学院入試WG及び、入試広報WGにおける、情報の収集分析結果に基づいて、広報等の改善を検討しつつ実施する。また、入学者選抜方法の改善等を継続的に検討する。	1. 平成25年度入試において、学部入試での出題ミスはなく、大学院入試については8月に1件生じたため、大学院入試検討WGを開催し8部局(医歯薬学総合研究科は医歯学系と薬学系の2部局)の出題点検マニュアルを確認し、未作成の3部局に早急に作成するよう要請するとともに、作成部局であっても点検者の署名欄を設けていない2部局に同欄を設けるよう要請した。しかし、平成25年2月に1件生じたことから、今後も出題ミスを防止するための体制を構築することとしている。 2. 全学のアドミッション・ポリシーをホームページに掲載するとともに、アドミッションセンターが開催した各種入試説明会において配布資料に記載の上、説明し、岡山大学が求めている学生の資質を受験生等に周知した。併せて、優秀な入学者を確保するため、オープンキャンパスの開催はもとよりアドミッションセンター主催の各種入試説明会を計20回開催したほか、受験生応援メールマガジンを毎月配信するとともに、新たに「岡大合格体験記」を作成・配布した。 3. 学部入試制度の改善を検討した結果、より優秀な学生を確保するため理学部でAO入試を廃止し、新たに後期日程入試を実施したほか、受験生にわかりやすい入試制度に改善するため平成27年度入試から複数学科を置く学部へ改善を要請した。併せて、グローバル人材育成の社会的要請及び文部科学省からの要請を踏まえ、新たに平成25年10月[秋]入学国際バカロレア入試(マッチングプログラムコース)を実施し、受験生3人を確保した。平成28年度入試で課す教科・科目については、他大学の公表状況を踏まえつつ慎重に検討しているところである。 4. 大学院入試については、各研究科と連携し、大学院入試検討WGを開催し、各研究科入試スケジュールを取りまとめホームページで公表したほか、入学者選抜方法の検討を支援し、医歯薬学総合研究科博士課程及び社会文化科学研究科博士後期課程において、それぞれ2013年10月入学外国人留学生海外特別入試を実施することとした。
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標 募集要項(アドミッションポリシー)の表記 入試説明会等の実施報告書 学部入試の志願倍率一覧表(過去の10年分)	
【総括記述欄】	
平成24年度の組織目標については、十分に目標を達成できたと考えている。次年度も継続して、優秀な学生の確保に努めたい。平成25年度入試では、優秀な学生を獲得するため、上記の広報戦略を展開した結果、全国の国立大学総志願者数が減少した中、平成24年度入試(前期日程)で8年ぶりに3,900人を確保した志願者(3,903人)を上回る志願者(3,910人)を確保した。 また、国際バカロレア入試について、グローバルに活躍する人材を育成するとともに、円滑に入学してもらうため、従来の4月入学入試に加え、新たに平成25年10月入学入試を実施し、志願者3人の確保を達成した。 平成25年度においては、なお一層優秀な学生を確保するため、入試広報活動の充実はもとより、国際バカロレア入試の志願者を拡充を図るため、4月入学入試の実施学部を拡大するとともに出願資格の緩和を図るほか、10月入学入試においても海外大学の出願時期を踏まえ、出願時期を前倒しするなど改善することとしている。さらに、大学院入試の出題ミス防止の徹底、平成28年度入試で課す教科・科目の公表、入学者選抜方法の分析、学生の成績追跡調査等を行うこととしている。	